



世界ウイグル会議主催 東トルキスタン世界同日開催デモ

独裁政権による人権抑圧と、各民族への差別・迫害・文化絶滅政策が横行する中華人民共和国、このような国にオリンピックを開催する資格などあるのでしょうか。

オリンピックはスポーツの祭典であると同時に、平和の祭典ともいわれます。オリンピック精神には平和と自由、平等といった人類普遍の精神が謳われています。

国際オリンピック委員会（IOC）のオリンピック憲章には、オリンピズムの根本原則が掲げられています。

【オリンピズムの根本原則】

2 オリンピズムの目標は、スポーツを人間の調和のとれた発達に役立てることにある。その目的は、人間の尊厳保持に重きを置く、平和な社会を推進することにある。

5 人種、宗教、政治、性別、その他の理由に基づく国や個人に対する差別はいかなる形であれオリンピック・ムーブメントに属する事とは相容れない。

オリンピックを招致するとき中国政府は、オリンピックが人権の発展のために良い機会になり、中国は人権により注意を払うと公言しました。

国際オリンピック委員会（IOC）も、北京オリンピックによって中国の人権状況が改善されることを期待していると、繰り返し発言してきました。

しかし、オリンピック開催日が近づいているにも関わらず、その公約はまったく果たされておりません。

少数民族を差別・迫害しているにもかかわらず、「民族の融和」を演出するために、聖火リレーが「新疆ウイグル自治区」に入ります。

6月25日ウルムチ市、26日カシュガル市、27日石河子市と昌吉市を巡る予定になっています。（6月6日に、それぞれ17日、18日、19日へと変更されました。）

聖火リレーが「新疆ウイグル自治区」に入る予定だった25日に合わせ、世界ウイグル会議が世界各国でデモを計画しています。日本でも世界ウイグル会議日本代表が東京でデモを予定しています。

民主主義の国日本の良心をアピールしたいと思います。

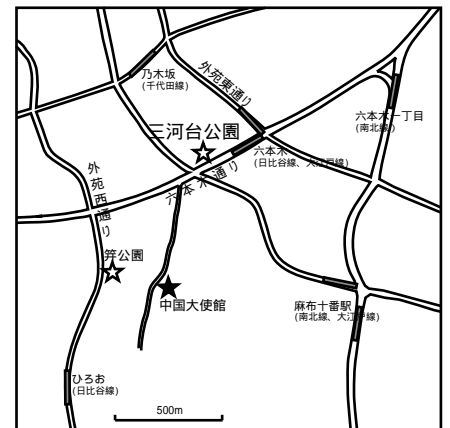
【場所】 港区六本木三河台公園～筈（こうがい）公園

【日時】 平成20年6月25日(水) 雨天決行

13:00～13:30 集会（三河台公園）

13:30～14:30 デモ

14:30 筈公園到着



日本では初めてとなる、東トルキスタン関係者主催のデモになります。

平日なので難しいかと思われませんが、みなさまのご協力とご参加をお願い致します。

東トルキスタンについて

東トルキスタンとは、現在は中国の「新疆ウイグル自治区」と名づけられている地域の名前です。ペルシャ語でテュルク（トルコ）の土地をトルキスタンと言い、西トルキスタンが旧ソ連の中央アジア諸国にあたります。

ここは、シルクロードの舞台として、東西の文明の交わる地点であると同時に、独自の文化と歴史を持った地域として繁栄してきました。しかし18世紀に清朝に征服され、19世紀には「新しい領土」を意味する「新疆」という名の一つの省として支配されました。

その後回族の軍閥やソ連軍、新疆政権などによる騒乱を経て、1933年と1944年に東トルキスタン共和国として独立を果たします。しかし1949年に中国共産党の陰謀により、国家の指導者らは暗殺され、中国に併合されるに至りました。

中国共産党の人民解放軍によって「解放」されるまで、中国とはまったく別の文化や言語、宗教、歴史を持った文化圏を形成してきました。

現在、新疆ウイグル「自治区」は、名ばかりの主席にウイグル人を置くことで少数民族による自治が行われているかのように見せかけています。しかし本当の権力は共産党書記が握っており、このポストは常に漢人によって占められてきています。

また少数民族の同化を目的とした漢族との結婚が奨励され、人口抑制のために産児制限が行われており、さらに数年前からは若い未婚女性を数万人単位で強制的に内地へ移住させています。

少数民族の伝統的な文化は破壊され、彼らの信仰するイスラム教の宗教活動や、民族の歴史や文化に関する出版活動などが制限されています。学校教育からのウイグル語の追放も徐々に進んできています。

そしてこれら同化政策の総仕上げとして、大量の漢族の移住が当局の主導の元、現在も進められています。

地球上からウイグル族という民族が消滅されようとしているのです。

東トルキスタンは石油、石炭などのエネルギー資源の豊富な地域ですが、その豊かな資源もほとんど全て中央へと吸い上げられ、現地の住民である東トルキスタンの人々にはなんら恩恵をもたらしていません。

また、住民が住んでいるすぐそばで核実験が何度も行われており、大量の放射能中毒者を出しています。

このような残酷な扱いに異議を唱える者は、「分離主義者」、「テロリスト」などとレッテルを貼られ、まともな手続きも経ずに監獄や強制労働所に送られています。

チベットと同じくらいに酷い弾圧を受けている東トルキスタンですが、現地を旅行する日本人の目には、それ程に酷いことが起きていると映らないことが多いようです。政府を批判したことが知られると逮捕されるから、ということもあります。しかし、それ以上に彼らウイグル人の民族的な気質が、虐げられる人々としての暗さを感じさせないということがあります。

素朴で実直、お客が大好き、歌と踊りが大好きな陽気な人々で、日中に酷いことが起きても、夜にみんなで集まって飲み食いおしゃべりをしたら忘れられる、というくらいに楽天的であるといえます。

だからこそ、過酷な弾圧下にあっても、皆たくましく生き延びてこられたのだと思われます。

民族的な文化の代表としては、音楽と踊りが第一にあげられます。

西洋音楽とは異なる音楽理論にマカーム音楽というものがありますが、ウイグル人の伝統的なムカーム音楽もその一系統です。20数種類の楽器によるオーケストラであり、2005年には12ムカーム（カシュガル・ムカーム）とドラム・ムカームとが世界無形文化遺産に登録されました。

「ウイグルの男の子はしゃべりだす前に歌いだし、女の子は歩きだす前に踊りだす。」といわれるくらい、あらゆるところに歌と踊りがあります。音楽があれば自然と体が動くという人も多いようです。

